

2013年10月21日

オーストラリアでの太陽光利用型植物工場の実証試験の規模を拡大

～収穫した野菜の現地でのテスト販売を開始～

三菱樹脂アグリドリーム株式会社
株式会社地球快適化インスティテュート

三菱ケミカルホールディングスグループの三菱樹脂アグリドリーム株式会社（以降「MPAD」）および株式会社地球快適化インスティテュート（以降「TKI」）は、実証試験を行っているオーストラリア・ビクトリア州の太陽光利用型植物工場において、野菜が安定的に栽培・収穫できることが実証されたことから、次のステップとして、収穫した野菜のオーストラリアでのテスト販売を実施するべく、本年12月に植物工場の規模を150㎡から600㎡へと拡大します。

昨年11月、MPADおよびTKIは、オーストラリア・ビクトリア州環境・第一次産業省の関連会社であるAgriculture Victoria Services Pty, Ltd. と太陽光利用型植物工場の実証試験に関する契約を締結し、同省が保有するノックスフィールド農業試験場の一部区画（約150㎡）に、MPADの閉鎖型苗生産システム「苗テラス®」*¹および葉菜用養液栽培システム「ナッパランド®」*²を設置し、太陽光利用型植物工場の実証試験を今春から行ってきました。その結果、オーストラリアの厳しい環境条件においても、日本と同じく高品質のハウレンソウなどの野菜を無農薬で栽培できることがほぼ実証されました。これに関し、ビクトリア州のデニス・ナプサイン首相からは、「MPAD、TKIの先進的な農業生産システムは、ビクトリア州政府が掲げる2030年までに農業生産量を倍増させるという政策にも大きく貢献するだろう」との高い評価を頂いております。

そのような状況のなか、次のステップとして、収穫した野菜を、現地パートナーを通じて高級スーパーやレストランにテスト販売することを目的に、本年12月、同試験場の植物工場の規模を現状の約150㎡から約600㎡まで拡大して生産量を増やします。また、来年1月からのテスト販売においては、今後の事業展開を視野に入れ、植物工場で栽培された野菜のブランド化を図るべく、パッケージ等を工夫し、洗わずに生でも食べられる野菜という新たなカテゴリーを訴求していく予定です。なお、テスト販売によるプレマーケティングによって良好な結果が得られた場合、MPADは、現地パートナーと共同で、生産から加工、販売までを手掛ける現地法人を設立するなど、新たなビジネスモデルの構築に向けた検討を進めてまいります。

私たちは、安全安心かつ高品質な野菜を提供する次世代アグリビジネスの普及に努め、三菱ケミカルホールディングスグループが提唱するKAITEKI*³の実現を目指してまいります。

- ※1 密閉空間で温度管理、光照射・灌水等を自動管理し、丈夫で均質な苗を短期間で育てるための設備
- ※2 水に養分を溶かした養液を循環させて、葉菜類を栽培するシステム
- ※3 人にとっての心地よさに加え、社会にとっての快適、地球にとっての快適を併せもったもので、真の持続可能な状態

【写真：葉菜用養液栽培システム「ナッパーランド®」】



【写真：パッケージ】



【会社概要】

・三菱樹脂アグリドリーム株式会社

本 社 : 東京都中央区日本橋本石町1-2-2

代表者 : 代表取締役 荻原 勝年

設 立 : 2009年7月1日

資本金 : 3億円（三菱樹脂株式会社 全額出資）

主要事業 : 農業用フィルムの製造・販売

灌水資材・ベタがけ資材等の農業資材・施設資材の販売

養液栽培システムの製造・販売

・株式会社地球快適化インスティテュート

本 社 : 東京都千代田区丸の内1-1-1

代表者 : 代表取締役社長 小林 喜光

設 立 : 2009年4月1日

資本金 : 1000万円（株式会社三菱ケミカルホールディングス 全額出資）

主要事業 : 持続可能なエネルギー・資源、気候変動をはじめとする地球環境問題、水・食糧危機、健康問題など、21世紀の人々が直面している様々な問題に関する研究・調査およびそれに対応する事業のための研究開発、ならびにこれら研究に関連する委託

本件に関するお問合せ先 (株) 三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 電話 : 03-6748-7140
